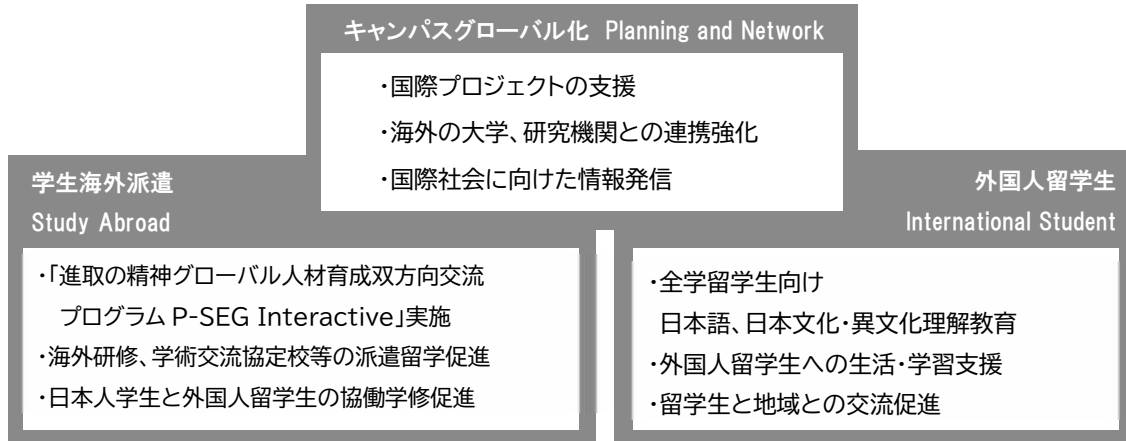


グローバルセンター

令和3年度 グローバルセンター活動報告

I. グローバルセンター概要

● 3部門概要



● 教員

		センター長 畠田谷 桂子			
キャンパスグローバル化 Planning and Network		学生海外派遣 Study Abroad		外国人留学生 International Student	
教授	中谷 純江	教授	畠田谷 桂子	教授	和田 礼子
特任講師	難波 美芸	特任准教授	森田 豊子	講師	市島 佑起子
世界展開力事業 Inter-University Exchange Project					
特任助教	MARMOLEJO RAFAEL				

II. 令和3年度の活動内容

1. 令和3年度グローバルセンター運営委員会

(1) 主な審議事項

A. 教務、教育プログラム運営

大学の世界展開力強化事業／日本語日本文化研修留学生プログラム

Study Japan Program 開設科目と修了要件・修了認定（前後期）／学術交流協定締結

B. 学生受入、派遣

鹿大「進取の精神」支援基金事業（留学生受入推進事業の募集、選考等）

同事業（学生海外派遣事業（長期）の延期、留学生受入推進事業の中止）

C. 雇用、管理

特任職員の雇用／グローバルセンター客員教授称号付与

令和2年度決算、令和3年度予算／令和3年度、4年度非常勤講師雇用計画

コロナ禍における国際交流事業の実施対応

(2) 開催日程

*はメール会議

回数	1*	2*	3*	4*	5*	6	7*	8*	9	10*	
日程 (始)	令和3年										
(至)	4/22	5/20	5/26	6/17	7/20	9/21	9/22	10/21	11/16	12/1	
回数	11*	12	13*	14*	15*	16*					
日程 (始)	令和3年	令和4年									
(至)	12/23	1/18	2/9	2/18	2/24	3/18					
	12/27		2/10	2/21	2/28	3/23					

2. 令和3年度グローバルセンター教育関連事業（概要報告）

本節では、グローバルセンターが実施している事業の中から、特に学生教育を中心に概要を報告する。

(1) 学生海外派遣

(1a) 日本人学生の海外派遣実績

令和3年度は、文部科学省により8月から9ヶ月以上の海外派遣留学が認められたことを受け、留学可否判断を行う学内の制度を構築した。この制度の下、大学全体で年度内に21名（協定校派遣13名、トビタテ留学 JAPAN 1名、私費留学7名）を派遣した。また、令和4年度の派遣に備えて、令和4年度派遣候補生選考を行い、34名を選考（内訳：11名前年からの延期+23名新規採用）し、PDCA サイクルに則った派遣準備教育（共通教育科目「派遣留学1」「留学生のための異文化理解」）を実施した。さらに、「鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛留学生」」の初の派遣となる候補生を選考し、UCLへの入学申請を行った。個別プログラムの令和3年度の実施状況は以下の通りである。

- ・鹿児島大学学生海外研修支援事業→14名支援（実渡航研修をオンラインに変更して実施）
- ・オンライン海外研修支援事業→25名支援（当初からオンライン研修を企画して実施）
- ・鹿児島大学学生協定校派遣留学→13名派遣
- ・トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム→1名派遣
→第11、12期生の希望者は渡航延期、第13期採用者0名（選考途中で選考中止となった）、第14期生は6名採用
- ・鹿大「進取の精神」支援基金事業による学生海外派遣事業（長期派遣）→令和4年度に渡航延期
- ・鹿児島県清華大留学支援奨学金奨学生事業→中止
- ・パース市英語イマージョンプログラム PUPILS →中止、事業終了。
- ・鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛留学生」→0名派遣

コロナ禍ではあるが、例年通り「進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」(P-SEG Interactive)」の運営を行った。P-SEG 説明会を対面とオンラインで開催したほか、Web や SNS 等による情報提供、啓発活動を行った。説明会では、海外研修、派遣留学、語学学習などの機会をロードマップによって学生に提示し、在学期間中に身につけるグローバル・コンピテンシー（能力や価値観や態度）について明らかにすることで、学生の興味や学習意欲を保つように努めた。

活動内容としては、語学学習機会として、Intensive English をオンライン開講し（10回 / 学期：受講者数：前後期計105名）、TOEFL 模擬試験（受験者数：前後期計61名）も実施した。また、オンラインを活用した国際教育の推進にも力を入れた。

オンライン国際教育科目受講生数（35科目）

数値目標となっている項目		目標値	実績値
世界展開力事業 COIL 科目	本学学生数	138 名	381 名
	海外連携校学生数	189 名	307 名
全学オンライン 国際教育科目	本学学生数	-	532 名
	海外連携校学生数	-	501 名

その結果、大学の世界展開力強化事業開始4年度目の知見と実績を活かして、オンライン国際協働学習（COIL）で目標値を上回る成果をあげた。また、COIL 以外のオンライン国際教育として、グローバルセンターでは、第1に、本学学生向けにハワイ大学と「Virtual Exchange Program」（約1週間のオンライン集中講義）を実施した。この授業料は、同センターが所掌する学生海外研修支援事業選考委員会で昨年度設けた「オンライン海外研修支援事業」で支援した。第2に、西オーストラリア大学との国際共修授業も前後期に実施した。大学全体では渡航停止の海外研修の代替として、「オンラインによる国際教育」が全学で合計35科目実施され、本学学生532名と外国人学生501名に国際教育の機会を提供した。

センター教員は、各自がオンライン活用科目を複数担当して実績数を上げるとともに、同センターが統括する大学の世界展開力強化事業や、所掌するオンライン海外研修支援事業で、オンライン国際協働学習（COIL）やオンライン海外研修を推進し、コロナ禍収束後の新たな国際交流教育の手法を拓いた。

これらオンラインを活用した国際教育の成果について、全学の実施状況をセンターでまとめ、一部のプログラムについては、心理測定学に基づいて米国で開発された評価テスト BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) を用いて効果を検証した。

(1b) 海外留学啓発活動、指導

令和3年度以降の渡航再開に備えた説明会、令和4年度海外研修及び派遣留学候補生選考を行った（「派遣留学説明会」7月実施、参加者73名、「派遣留学（待機者用）説明会」3回実施、参加者計54名、「トビタテ（待機者用）説明会」5回実施、参加者計43名）。また、個別留学相談（57名）を実施したほか、循環型留学啓発教育では、留学帰国生による、学生海外派遣部門ホームページの留学体験談サイト「伝えよう！鹿大生の海外体験」と留学情報を記入するファクトシートについて、利用の啓発を継続した。海外渡航に関する大学の方針「国際交流事業に関する実施条件対応表」を時々の状況に応じて改訂し、大学を通じた派遣生のみならず、私費渡航を計画している学生の渡航管理、指導を、年間を通して行った。

(1c) 地域人材育成プラットフォーム「グローバル教育プログラム」

本プログラムにおいて、スタートアップ科目「Intercultural Communication for Global Citizens」、コア科目「Confronting Kagoshima Regional Issues」、地域志向科目「Capturing Kagoshima Regional Issues from SDGs」を担当し、地域人材育成プラットフォーム運営委員会委員として当該プログラムの運営に携わった。このうち、スタートアップ科目とコア科目では、西オーストラリア大学生の有志が全授業にオンライン参加して協働学習を行い、地域志向科目では、昨年に引き続きハワイ大学、甲南大学と協働で Virtual Exchange プログラム（オンライン集中研修）を実施した。

また、本プログラムで担当している事前学習、海外実地体験、事後学習科目については、実渡航が中止となったことから、令和3年度は履修者がなく、不開講であった。

(2) 日本人、留学生の協働学習

外国人留学生と日本人学生の協働学習を行うグローバルランゲージスペース（グロスぺ）の活動として、昼休みの活動「外国語 Speaking Lunch Table」は、コロナ禍のため令和2年度に続き年間を通して中止した。一方、週1回、固定グループで学期に10回学習する「グロスぺ外国語」は、前後期ともオンラインで実施した（前期72名：留学生14名、学生60名。英、韓、中語）、（後期57名：留学生9名、学生48名。英、韓、中、越、馬語）。例年通り、グロスぺ外国語参加者の報告コメントでは、意義を認める回答が多数得られた。

(3) 外国人留学生受入

(3a) 外国人留学生受入状況、教育体制

外国人留学生対象「Study Japan Program (SJP)」は、4月よりオンラインで開講した。開講に先立ち、学生、教員双方の利便性に配慮したレベル別 Zoom やクラスごとの SNS グループを設定し、コロナ禍での授業実施体制を整えた。留学生に対しては、昨年度に引き続き、プレースメントテスト受験、履修登録、履修相談がオンライン上で行えるよう整備し、コロナ禍の影響で授業開始時に入国できない留学生への対応として、開講時間、開講科目等の調整を行った。本年度も外国人の入国規制が続き、令和元年度と比較して新規受入留学生数が大幅に減少した中の開講となったが、SJP 年間受講者総数は延べ187名となった。

平成29年度より継続の鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業では、「研究留学生受入プログラム」にて6名を採用し、年度内に渡航が可能となった2名を受け入れた。同事業の「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム」は1名を採用したものの、渡航制限により入国がかなわず中止となった。

共通教育外国人留学生必修科目である日本語日本事情科目では、オンライン及びハイブリット形式で授業を進めた。新規学部留学生16名の内8名は、年度当初より自国から遠隔で授業履修を行うこととなった。学内関係部署と連携し、未入国学生を含む新規学部留学生を対象に、遠隔授業による学習の問題やコロナ禍における生活不安等について、オンラインでの相談指導を重点的に行った。

(3b) 外国人留学生受入体制の充実

外国人留学生への経済的支援として、鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業の「研究留学生受入プログラム」にて2名を支援している。また、年度内の入国が可能となった外国人留学生13名に対して、入国後の隔離費用及び空港所在地から鹿児島までの移動費用の一部を助成した。さらに、大学独自の奨学金として「鹿児島大学留学生後援会奨学金（14名）」「種村完司私費外国人留学生奨学金（5名）」、「外国人留学生民間宿舍費助成事業（12名）」を継続して給付した。加えて新規留学生獲得のため、日本語学校で本学独自の進学説明会2件を主催し、他機関主催の進学説明会にも1件参加した。外国人留学生をサポートする「留学生受け入れサポートデスク」では、本学学生をスタッフとして雇用し、留学生入国時の各種手続き支援を行った。留学生寮である国際交流会館では、例年通り会館チューター5名（国際交流会館に居住する学生スタッフ）を採用し、業務改善を目指した相談指導を重点的に行った。

(4) 学生教職員への国際的な情報の発信

本学の国際教育プログラム（P-SEG Interactive）の説明会を4月と10月に開催し、P-SEG Web サイト及び SNS から情報の発信を行った。海外渡航のみならず、学内の交流も絶たれた学生に向けて、コロナ禍においても先を見据え、世界に目を向けて学習を継続する高い意欲を持ち続けられるよう、グローバルな視点やマインド、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的に、2種類の冊子「未来は誰がつくる 視点をグローバルに」（第2版）と、「セカイを変えよう P-SEG Interactive」（2022）を編集し、3月に発行した。

(5) 国際共同教育研究の推進支援

コロナ禍により、令和2年度派遣予定で令和3年度に派遣を延長した「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業」採択者3名（地域貢献型2名、一般型1名）については、3名とも派遣を辞退した。令和3年度は募集したが申請がなかった。

(6) 平成30年度採択 文部科学省大学の世界展開力強化事業「米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム」

グローバルセンターは、大学の世界展開力強化事業（以下「本事業」）を統括、担当している。コロナ禍で実施できない派遣、受入の代替、新たな国際交流教育の手法として、オンライン国際協働学習（COIL）を強化し、受講者数は目標値を大幅に上回った（P62表、参照）。また、オンラインシンポジウム「SDGsのポリティクス 技術革新・経済・倫理」を同期と非同期の2層構造で1ヶ月間開催し、時間や空間を超えて、アジアや米国各地の連携大学からの参加を可能にした。日本からは二酸化炭素の回収の最新技術について、米国からは牛肉生産の持続可能性を問うゲスト講演が行われ、パネルディスカッションや活発な質疑応答が行われた。また、プログラム担当教員と参加学生を中心に、COILの事例報告を行うFDも開催した。同期、非同期の両シンポジウムをあわせると、国内外からの参加アクセス数300名（延数）以上を得た。シンポジウムの成果報告や各コース別のCOIL事例報告をWEB掲載したほか、本事業参加教員全体で論文2本、学会発表1件、講演2件、広報誌、新聞記事掲載各1件を行い、成果普及に務めた。

(7) 鹿大「進取の精神」支援基金事業

寄附金を原資とする同基金事業の実施報告として、「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 令和2年度事業報告書」を令和3年7月に刊行し、同基金を支援する目的で設立された鹿児島大学「鹿大『進取の精神』支援基金」支援会役員をはじめ関係各団体、企業に贈呈した。また、同事業ホームページの運営を継続した。なお、同事業による派遣は、教員、学生とも全て延期、受入は、令和4年3月に研究留学生2名が入国し、令和4年8月まで本学で研究を行った。

以上

各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所屬
令和3年度後期

科目	受講者数		性別		修了者数	受講者の在籍資格						専門・所屬																				
	男性	女性	学部生	大学院生		研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	共同獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	教育研	保険	理工	農林水産学	医歯	臨床心理	共同獣医学研	適合農学	適合獣医	他大学		
会話1-1B	9	2	7	8	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	1	0	0		
会話1-2B	9	2	7	8	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	1	0	0		
会話2B																																
会話3B																																
会話4B																																
会話5B	6	3	3	6	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
会話6B	7	2	5	7	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会話7B	8	3	5	6	0	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
総合日本語	2	1	1	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
演習1-1B	2	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
演習1-2B	5	1	4	3	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
演習2B	6	4	2	2	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
演習3B																																
演習4B																																
聴解5B	5	3	2	4	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
聴解6B	10	3	7	7	0	3	0	0	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
聴解7B																																
作文4B																																
作文5B	5	2	3	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
作文6B																																
作文7B																																
漢字1																																
漢字2・漢字3・日本語7-1/3/7/B	8	1	7	3	0	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0		
異文化理解1	0																															
日本社会と文化1	5	2	3	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本社会と文化2	4	2	2	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
SJ科目 小計	91	32	59	72	0	41	6	6	38	0	2	0	0	0	25	9	0	0	11	5	0	8	21	1	0	3	4	0	2			
Step1																																
Step3																																
日本語 5週間																																
Step2																																
Step4																																
プログラ																																
△																																
国際交流会館小計																																
3/4期																																
桜ヶ丘キャンパス小計																																
グローバルセンター開講科目 総計	91	32	59	72	0	41	6	6	38	0	2	0	0	0	25	9	0	0	11	5	0	8	21	1	0	3	4	0	2			
日本語Ⅲ*	25	13	12	25	0	24	0	0	1	0	0	0	0	0	6	6	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本語Ⅳ*	24	13	11	23	0	23	0	0	1	0	0	0	0	0	6	5	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本語事情B*	28	16	12	26	0	26	0	0	2	0	0	0	0	0	9	5	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
共通教育科目 計	77	42	35	74	0	73	0	0	4	0	21	0	9	0	21	16	1	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

注)1 数字は延べ数。

2 専門・所屬：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。

3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。

4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。

5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。

6 グレーセル：開講しなかった科目。

Ⅲ. 各センター活動報告

受講者の国籍
令和3年度後期

国籍	科目																	国際交流会館		桜ヶ丘		グローバルセンター		日本事情 B	共通教育科目計	国別人数総計																															
	会話 1 1 B	会話 1 1 2 B	会話 2 B	会話 3 B	会話 4 B	会話 5 B	会話 6 B	会話 7 B	総合日本語	演習 1 1 B	演習 1 2 B	演習 3 B	読解 4 B	読解 5 B	読解 6 B	読解 7 B	作文 4 B	作文 5 B	作文 6 B	作文 7 B	漢字 1	漢字 2・漢字 3	日本語ワークショップ B				異文化理解 1	日本社会と文化 1	日本社会と文化 2	S J P 科目計	国際交流会館 クラス 3期	国際交流会館 クラス 4期	週間ワークショップ	桜ヶ丘 3期4期	桜ヶ丘 キャンパス計	開講科目計																					
インドネシア	2	2					1	1	1	0	0	0	1	1				1				0			0	0	1							12	0	0	0	0	0	12	0	0	0														
ウクライナ	0	0					0	1	1	0	0	0	0	1				0				0			0	0	1								4	0	0	0	0	0	4	0	0	0													
ウガンダ	0	0					0	0	0	0	0	1	0	0				0				0			0	0	0								1	0	0	0	0	0	1	0	0	0													
オーストラリア	0	0					0	0	0	0	0	1	0	0				0				1			0	0	0								2	0	0	0	0	0	2	0	0	0													
カザフスタン	0	0					0	0	0	0	0	0	0	0				0				0			0	0	0								0	1	1	3	0	1	1	3	0	1	1	3											
韓国	0	0					0	1	1	0	0	0	1	1				0				0			0	0	1								5	8	8	24	5	8	8	24	29	5	8	8	24	29									
キリバス	1	1					0	0	0	0	0	0	0	0				0				0			0	0	2								2	0	0	0	0	0	2	0	0	0													
ケニア	0	0					0	0	0	0	1	0	0	0				0				1			0	0	2								2	0	0	0	0	0	2	0	0	0													
タイ	0	0					0	0	0	0	1	0	0	0				0				2			0	0	4									4	0	0	0	0	0	4	0	0	0												
台湾	0	0					1	0	0	0	0	1	0	1				0				0			0	1										5	0	0	0	0	0	5	0	0	0												
中国	0	0					4	0	0	1	0	0	6	0				1				1			0	1									16	10	9	29	16	10	9	29	45	16	10	9	29	45									
トルコ	0	0					1	0	0	0	0	1	0	0				1				0			0	1									4	0	0	0	0	0	4	0	0	0													
バンダラディシュ	1	1					0	0	0	0	2	1	0	0				0				2			0	0	7									7	0	0	0	0	0	7	0	0	0												
ブラジル	0	0					2	0	0	0	0	1	0	1				1				0			0	1										5	0	0	0	0	0	5	0	0	0												
プータン	0	0					0	0	0	1	0	0	0	0				0				0			0	0	2									2	0	0	0	0	0	2	0	0	0												
フィリピン	1	1					1	0	0	0	0	1	0	1				1				1			0	1										7	0	0	0	0	0	7	0	0	0												
フィジー	0	0					0	0	0	1	0	0	0	0				0				0			0	0	2																														
ベトナム	2	2					0	1	1	0	0	0	0	0				0				0			0	0	6																														
マレーシア	1	1					0	0	0	0	0	0	0	0				0				0			0	0	2																														
マラウイ	0	0					0	0	0	0	1	0	0	0				0				0			0	0	1																														
ラオス	1	1					0	0	0	0	0	0	0	0				0				0			0	0	2																														
受講者総数	9	9					6	7	8	2	2	5	6	5	10			5				8			0	5	4	91							91	25	24	28	77	168	91	25	24	28	77	168											

注) 1 数字は延べ数。